

## I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

平安時代末期に大いに流行した猿楽は、奈良時代に伝来した (1) (2) に由来するという。この猿楽や田楽などのさまざまな神事や芸能が淵源となり成立した能は、南北朝時代頃から盛んに演じられるようになった。寺社の保護を受けた座も多数現れ、 (3) (4) を本所とした四つの座を大和猿楽四座という。そのうちの (5) (6) に出た観阿弥・世阿弥父子は将軍 (7) (8) の保護を受け、より芸術性の高い猿楽能を完成させた。幽玄の美を求めたその理論は世阿弥の著書『( a )』として後世に残された。また能の間に演じられるようになった (9) (10) は、風刺性が強く平易な内容であったため庶民に愛好された。出版物としては絵の余白などに当時の口語で物語を書いた (11) (12) も民衆に好まれた。庶民的な短編物語に節をつけて舞った幸若舞も流行し、織田信長もこれを好んだ。17世紀になると出雲阿国が京都でかぶき踊りを始めて大流行し、女歌舞伎が生まれた。これは後に江戸幕府によって禁止され、少年が演じる若衆歌舞伎を経て野郎歌舞伎が成立した。このように、室町時代から江戸時代にかけては演劇などの芸能文化が大きく開花した。

鎌倉時代、 (13) (14) が宋より持ち帰った喫茶の習慣は、南北朝時代には武家や庶民でも行われ、酒食を楽しみ茶を飲む (15) (16) が室町時代を通じて広く行われた。だが応仁の乱後は禅や幽玄を特徴とする東山文化が起こり、茶の飲み方にも精神性を求めるようになる。 (17) (18) は簡素な茶室で心を静める ( b ) を考案した。( b ) はその後の茶文化の主流となり、堺の町衆 (19) (20) によって儀礼が定められ、茶道として確立した。同じく東山文化では近代の和風住宅の原型となった (21) (22) が新たな建築様式として出現し、座敷の装飾のための掛け軸・襖絵などの絵画や、床の間を飾る立花・工芸品がさらに発展した。立花では15世紀半ばに京都頂法寺(六角堂)の僧 ( c ) が現れ、その一族はのちにこれを華道として大成した。庭園も禅の精神で統一され、禅宗様の寺院などでは (ア) 枯山水と呼ばれる庭が作られた。これらの多くは技芸をもって将軍に仕える (23) (24) と呼ばれる集団が作り出したものである。

こうしてみると、文化の変遷は庶民的なものから高尚なものへ上昇し、また一方で雅なものから俗なものへと下降する、波のようなものであろう。後者の例も見てみよう。和歌から派生した連歌は、複数の人間が上の句と下の句を交互に詠み連ねる詩歌であり、二条良基らの撰による『( d )』が (イ) 勅撰集と同格と見なされたほどの雅なものであった。この歌風を継承して (25) (26) が正風連歌を確立したが、一方で (27) (28) はより自由な気風を持つ俳諧連歌をつくり、『犬筑波集』を編集した。さらに時代が下り江戸時代になると連歌の冒頭、上の句だけが独立して、より庶民的な文芸が生まれた。当初は滑稽やだじゃれを織り込んだ作風が主流であったが、やがて (29) (30) による自由かつ奇抜な談林風が主流となった。これが連歌の余技では無く、ひとつの詩文芸として大成したのは17世紀後半に活躍した (31) (32) の功績が大きい。その幽玄閑寂な作品は『猿蓑』などの作品集に収められ、のちに『俳諧七部集』としてまとめられた。

近代以降、この文芸は (33) (34) という呼称で親しまれている。明治時代には (35) (36) が写生を重視して (33) (34) 革新運動を起こし、のちに『 (37) (38) 』誌上で作品を発表した。これは当時大きな反響を呼び、多くの文学青年たちが彼の元に集まった。『 (37) (38) 』は

現在も刊行を続けており、この他にも多数の結社が存在している。いまなお多くの人々が (33) (34) の創作活動をおこなっており、慶應義塾においても『三田文学』と並んで伝統ある文化系団体として存続している。貴族たちが詠っていた和歌という雅な文化を淵源としつつ、ついには一般大衆が広く愛好する文芸となった好例であろう。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (37) (38) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- |          |          |         |          |         |
|----------|----------|---------|----------|---------|
| 11 足利尊氏  | 12 足利義教  | 13 足利義政 | 14 足利義満  | 15 馬酔木  |
| 16 校倉造   | 17 荒木田守武 | 18 アララギ | 19 一条兼良  | 20 今井宗久 |
| 21 栄西    | 22 絵双紙   | 23 御伽衆  | 24 御伽草子  | 25 観世座  |
| 26 黄表紙   | 27 狂歌    | 28 狂言   | 29 草双紙   | 30 小歌   |
| 31 興福寺   | 32 広隆寺   | 33 小林一茶 | 34 金剛座   | 35 金春座  |
| 36 催馬楽   | 37 散楽    | 38 書院造  | 39 成尋    | 40 成忍   |
| 41 寝殿造   | 42 数寄屋造  | 43 雪舟   | 44 千利休   | 45 宗鑑   |
| 46 宗祇    | 47 宗長    | 48 高浜虚子 | 49 武野紹鷗  | 50 短歌   |
| 51 茶の間   | 52 茶の湯   | 53 茶寄合  | 54 津田宗及  | 55 道元   |
| 56 東大寺   | 57 同朋衆   | 58 都々逸  | 59 西山宗因  | 60 俳句   |
| 61 引付衆   | 62 風流踊り  | 63 宝生座  | 64 ホトトギス | 65 正岡子規 |
| 66 松尾芭蕉  | 67 松永貞徳  | 68 明星   | 69 村田珠光  | 70 薬師寺  |
| 71 与謝野晶子 | 72 与謝野鉄幹 |         |          |         |

問2 文中の空欄 ( a ) ～ ( d ) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 下線部 (ア) はどのような庭園か。解答用紙 B の所定の解答欄に20字以内で説明しなさい。

問4 下線部 (イ) はどのようなものか。解答用紙 B の所定の解答欄に15字以内で説明しなさい。

## Ⅱ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

江戸時代の日本では様々な学問が発達したが、その中心に位置づけられるのは儒学である。このうち朱子学は、(39) (40) 代の朱熹が大成した学問で、日本には鎌倉時代に伝来し、室町時代には<sup>(ア)</sup>五山の僧らを中心に学ばれていた。日本近世朱子学興隆の基礎を開いたとされる藤原惺窩は、五山の一つである(41) (42) の僧となり朱子学に接した。その後惺窩は、朝鮮の儒学者である( a )との交流などを経て朱子学の学びを深めた。惺窩に始まる朱子学の門流は(43) (44) 学と呼び表されている。

惺窩に師事した林羅山は徳川家康に用いられ、その子孫も代々幕府に仕えた。林家を継いだ林鷺峰が完成させた『本朝通鑑』は、(45) (46) 天皇の時代までを記した歴史書である。幕府内での林家の地位がより明確になったのは、将軍徳川綱吉の時代である。綱吉は、林家が上野忍ヶ岡に設けていた孔子廟と家塾を湯島に移して学問所として整備し、これにともない林鳳岡を( b )に任じた。以降林家の当主はこの官職を世襲することになった。

林家以外にも、幕府や諸藩で重用された朱子学者は少なくない。松永尺五に学んだ木下順庵は、加賀藩主の(47) (48) に用いられ、のちに綱吉の侍講となった。順庵の門人の一人である新井白石は、侍講として仕えていた徳川家宣が将軍となったのを機に、幕政に深く関わった。家宣の将軍就任慶賀のため朝鮮通信使が来訪するに際し、国書の宛名を「日本国王」と改めさせたのは、白石の提言によるものである。また白石は、綱吉の治世下で悪化した幕府財政の改善を意図して貨幣改鑄策を推進してきた(49) (50) の罷免を求め、かつての(51) (52) 小判と質・量ともに同水準の小判を鑄造した。これは、(49) (50) の行なった改鑄で貨幣価値が大きく変わったために生じた物価の(53) (54) をとめようとしたものであった。

将軍<sup>(イ)</sup>徳川吉宗は実学を重視し、漢訳洋書の輸入制限を緩和したことで知られるが、儒学を軽んじたわけではない。吉宗は民衆教化の一環として、順庵の門人である室鳩巢に『(55) (56)』の編修を命じ、寺子屋の教材として使わせている。なお、この鳩巢と近い世代の順庵の門人には、対馬藩に仕え、同藩の文教や朝鮮との外交にも尽力した( c )もいる。

儒学者の中には、(57) (58) 代の王陽明が創始した陽明学を追究する者もあった。知識を深めることを重んじた朱子学に対して、実践を重視した陽明学者は、時として現体制を批判する主張を展開した。近江聖人と呼ばれ日本陽明学の祖とされる(59) (60) の門人であった熊沢蕃山は、岡山藩主の(61) (62) に仕えて活躍したが、のちに著書『(63) (64)』などで幕政を批判し、下総古河に幽閉された。時代は下るが、(65) (66) の飢饉にともなう窮民増大に対する幕府の無策と腐敗を批判して武装蜂起した大塩平八郎も、陽明学者の一人であった。

一方、17世紀後半には、朱子学や陽明学はあくまで朱熹や王陽明らによる儒教の經典の解釈にすぎないとみなし、經典そのものに学ぶべきとする古学派も生まれた。古学派においては、会津出身で『聖教要録』などを著した(67) (68)、京都の町人出身で堀川に私塾を開いた(69) (70)、18世紀初めに江戸に(71) (72) という私塾を開いた荻生徂徠が、それぞれ独自の学派を形成した。徂徠は政治や経済に対する関心も高く、彼の著した『(73) (74)』は、将軍の諮問に応じてまとめた幕政改革案である。また、徂徠の門人の太宰春台の代表作とされる『(75) (76)』も、幕藩体制に対する

多くの改善策を含んでいる。

その後の儒学では、諸学の長所をとり入れながら聖人の真意に近づこうとする新しい学派も登場したが、18世紀末に幕府は朱子学を正学として、<sup>(ウ)</sup>湯島聖堂の学問所における異学の教育を禁止した。また、同学問所では旗本・御家人とその子弟を対象として<sup>(エ)</sup>朱子学の理解を試す試験も行われるようになった。この試験は人材の発掘にも用いられ、その合格者の中には幕末の混乱期に對外関係などの要職に就く者もあった。

問1 文中の空欄 (39) (40) ～ (75) (76) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 池田光政	12 石田梅岩	13 伊藤仁斎	14 荻原重秀	15 懷徳堂
16 花月草紙	17 咸宜園	18 含翠堂	19 京	20 享保
21 稽古談	22 経済要録	23 経済録	24 経世秘策	25 慶長
26 下落	27 護園塾	28 建仁寺	29 元文	30 元禄
31 古義	32 後光明	33 古史通	34 後醍醐	35 後水尾
36 後陽成	37 酒井忠清	38 相国寺	39 上昇	40 清
41 新論	42 政談	43 折衷	44 宋	45 大学或問
46 竹内式部	47 谷時中	48 天保	49 天明	50 天龍寺
51 唐	52 東福寺	53 中井竹山	54 中江藤樹	55 南
56 野中兼山	57 保科正之	58 堀田正俊	59 前田綱紀	60 前田利家
61 前田利長	62 万寿寺	63 明	64 山鹿素行	65 山片蟠桃
66 山崎闇斎	67 養賢堂	68 頼山陽	69 六論衍義大意	70 柳子新論

問2 文中の空欄 ( a ) ～ ( c ) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、五山の次の格の官寺を何というか、漢字で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、吉宗は幕府の財政を補填するために、それまでの将軍と大名の間の主従関係の基本に関わるような策にふみきった。将軍にとって「恥辱」ともいわれたこの策を何というか。
- (3) 下線部 (ウ) の前年に幕府は棄捐令を出した。旗本や御家人の俸禄米の受取・売却の代行から俸禄米を担保とする金融へと業務を広げていた商人たちは、この棄捐令によって貸金の放棄などを求められた。このような商人を何というか、漢字で書きなさい。
- (4) 下線部 (エ) について、この試験を何というか、漢字で書きなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

福澤諭吉は、政治について「政府は事物の順序を司どりて現在の処置を施し」と『文明論之概略』で論じていた。政府の周りで起こる「現在」の内政・外交情勢はいつの時代もめまぐるしく動き、それを「処置」する政治は困難を極める。その様子を、福澤も生きた時代から見てみよう。

慶應義塾に演説館が建てられた翌年、犬養毅が慶應義塾に入学する。犬養は学生の頃、西南戦争の従軍記者をつとめている。この戦争は、(77) (78) をめぐる明治 (79) (80) 年の政変により下野した西郷隆盛らが起こした内戦であった。この政変後、内務卿に就いた (81) (82) が政府の主導権を握る。

この頃の国内政治の対立には、岩倉使節団が関係している。使節団は、普仏戦争やパリ・コミュンの後のパリ、さらにベルリンを訪れて普仏戦争を勝利に導いたドイツ帝国の宰相ビスマルクにも会い、明治 (79) (80) 年に帰国している。当時の政府の悲願のひとつに、不平等条約の改正があった。それが最終的に達成されたのは、(83) (84) 外相が関税自主権の完全回復をはたした時である。

政変で参議を辞していた江藤新平らは、(85) (86) を設立するとともに、イギリス帰りの知識人の力を借りて作成した (87) (88) を左院に提出して自由民権運動を起こす。対応を迫られた政府は1875年4月に (89) (90) を出す一方で、6月には、(91) (92) などを制定することにより、民権運動家たちの政府への攻撃をきびしく取り締まった。

自由民権運動への「処置」の在り方をめぐり、明治 (93) (94) 年の政変が起こる。この政変により主導権を握ったのは、伊藤博文である。これ以降、薩摩と長州からなる藩閥政府が確立する。政府を追われた (95) (96) は、<sup>(ア)</sup>立憲改進黨を立ち上げた。一方の伊藤は、ヨーロッパに留学して、特にベルリン大学やウィーン大学で、君主権の強いドイツ流の憲法理論を学んで帰国した。

ドイツ人の政府顧問 (97) (98) らの助言を得て憲法が起草され、<sup>(イ)</sup>1889年、大日本帝国憲法が発布される。この時の首相 (99) (100) は、政府の政策は政党の意向に左右されてはならないという超然主義を唱えていた。

立憲政友会の (101) (102) と立憲国民党の (103) (104) らが中心となって、「閥族打破・憲政擁護」を掲げる運動を起こしたのが第一次護憲運動である。この運動を受けて (105) (106) 内閣が退陣する。いわゆる、<sup>(ウ)</sup>大正政変である。

1923年、<sup>(エ)</sup>関東大震災が起こる。翌年、第二次護憲運動を受けた選挙の結果、(107) (108) の加藤高明、立憲政友会の (109) (110)、そして (111) (112) の犬養たちの護憲三派が圧勝する。この選挙によって誕生した加藤内閣は、1925年の普通選挙法の制定時に、国体の変革と私有財産制度の否認を目指す者を取り締まるために (113) (114) を成立させている。

二大政党が交互に政権をになう「憲政の常道」と呼ばれた時代は1924年加藤内閣から1932年犬養内閣までの8年ほどであった。この間に1929年にはじまる世界恐慌と1930年に解禁された金輸出などの影響で昭和恐慌が起こる。その頃、(115) (116) を首相とする内閣は、(117) (118) 海軍軍縮条約の批准を進めていたが、これに海軍軍令部は反対していた。この時、犬養が率いる野党 (119) (120) は軍部などとともに、<sup>(オ)</sup>( a ) の干犯であると論じて政府を攻撃する。

1930年代に入ると農業恐慌が起こり欠食児童や娘の身売りが続出し、国外では(カ)満州事変も起こって、福澤の言う「現在の処置」を施す政治が極めて難しくなってきた。1931年の末に成立した犬養内閣は、金輸出再禁止や積極財政を行ない、軍部の意向に配慮しながらも満州国の承認には消極的であった。そこに五・一五事件が起こり、政党政治は太平洋戦争の後まで中断した。

問1 文中の空欄 (77) (78) ～ (119) (120) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 六	12 七	13 八	14 九	15 十
16 十一	17 十二	18 十三	19 十四	20 十五
21 愛国公党	22 愛国社	23 青木周蔵	24 犬養毅	25 井上馨
26 岩倉具視	27 大久保利通	28 大隈重信	29 尾崎行雄	30 革新倶楽部
31 桂太郎	32 加藤友三郎	33 木戸孝允	34 清浦奎吾	35 グナリスト
36 黒田清隆	37 憲政会	38 公安条例	39 国会開設請願書	
40 国会開設の勅諭	41 国会期成同盟	42 後藤象二郎	43 小村寿太郎	44 西園寺公望
45 斎藤実	46 幣原喜重郎	47 集会条例	48 シュタイン	49 ジュネーブ
50 新聞紙条例	51 征韓論	52 政友本党	53 漸次立憲政体樹立の詔	
54 副島種臣	55 大同倶楽部	56 台湾出兵	57 高橋是清	58 田中義一
59 治安維持法	60 治安警察法	61 中央倶楽部	62 寺内正毅	63 寺島宗則
64 浜口雄幸	65 原敬	66 パリ	67 保安条例	
68 民撰議院設立の建白書		69 陸奥宗光	70 山県有朋	71 山本権兵衛
72 友愛会	73 立憲国民党	74 立憲政友会	75 立憲同志会	76 立憲民政党
77 立志社建白	78 ロエスレル	79 ロンドン	80 若槻礼次郎	81 ワシントン

問2 以下の設問の解答を解答用紙Bの所定の解答欄に漢字で書きなさい。

- (1) 下線部（ア）について、立憲改進黨はイギリス流の議院内閣制を主張した。対してフランス流の急進的な自由主義を唱えた自由党の初代総理（党首）の名前を書きなさい。
- (2) 下線部（イ）について、この時期に民法典論争が起こっている。フランスの法学者が起草した民法を、日本の伝統的な家族制度を破壊すると論じて批判した帝国大学憲法学者の名前を書きなさい。
- (3) 下線部（ウ）について、この時代の思潮や社会運動は大正デモクラシーと呼ばれる。1920年に、平塚らいてうらが女性の参政権などの政治参加を求めるために立ち上げた組織名を書きなさい。
- (4) 下線部（エ）について、関東大震災後の復興事業を担うために設置された帝都復興院の総裁には、台湾総督府民政局長の経験者が就いた。その人物の名前を書きなさい。
- (5) 下線部（オ）について、( a )に入る最も適当な語句を書きなさい。
- (6) 下線部（カ）について、満州事変の発端となった関東軍による爆破事件名を書きなさい。